

## 第 1 学年国語科学習指導案

単元名 視野を広げて書こう

教材名 「視点を変えて書きかえよう」(東京書籍「新しい国語1」)  
 「少年の日の思い出」(東京書籍「新しい国語1」)

### 1 単元について

佐賀県の中学1年生の実態として、平成21年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「読むこと」、「書くこと」、「言語事項」の2領域1事項に課題が見られた。特に「書くこと」では、「目的や意図に応じて、必要な情報を選択したり整理したりして書く」こと、「目的や意図に応じて、伝えたい事柄が相手に明確に伝わるように書く」ことに課題があるため、年間指導計画の立案や単元構想に当たっては、この課題の克服を常に頭において考える必要がある。

生徒は、これまでの学習において「分かりやすく書こう」で相手や目的に応じたいいくつかの表現技法を、「根拠を示して書こう」で自分の意見を文章に書いて伝える際に根拠を明らかにして書くことを学んできている。しかし、経験が少ないために、学んだことを生かして、相手や目的に応じて書く形式を適切に選択したり、表現の工夫をしたりして書くことはできていない。この課題を克服するためには、目的や相手、場面を設定し、それに応じた表現の工夫をして書かせる指導が有効だと考えられる。その際に、文学作品を教材の一つとして取り上げ、読むこととの関連を図った指導を行うことによって、表現の特徴や工夫に着目するようになれば、作品に対して自分の考えをもつこともできると思われる。

そこで本単元では、相手や目的に応じて必要な情報を選択し、伝えたい事柄が相手に明確に伝わるように表現を工夫して書くことを経験させるために、教科書教材の文学的な文章の一部を視点を変えて脚本の形に書き換える言語活動を位置付けた単元として構成したい。

「視点を変えて書きかえよう」は、文学作品の視点(語り手)の存在に着目し、視点を変えて作品を書きかえることで別の角度から作品を考え直すことをねらった教材である。視点を変えて作品を書きかえることで別の角度から作品を考え直すことができ、条件に応じた表現の工夫についても考えることができる。そこから、新たな文学のおもしろさを発見することもできるだろう。本単元では、条件に応じて書くことを学ばせるという視点で本教材を利用し、伝えたいことを相手に明確に伝えるための表現の工夫についても気付かせたい。

「少年の日の思い出」は、主人公の少年時代の切ない思い出を語ったものだが、その主人公の心の揺れ、葛藤とともに、もう一人の登場人物エーミールの人物像や二人の間に起こった出来事を通して、二人のものの見方、感じ方、生き方の違いに注目し、深く文章を読み味わうことのできる作品である。二人の主な登場人物が対照的に描かれ、両者のものの見方や考え方の違い、主人公の心情の変化、体験を通して学んだことなどが巧みな描写と展開によって描かれていて、表現の特徴に注目して読むことにも適している。大きく二つの場面に分かれており、前半も後半も一人称視点で書かれているが、語り手(視点となる人物)自体は「わたし」と「僕(客)」とで入れ替わっている。脚本の形に書きかえるためには、第三者の視点をもって作品を見直す必要がある。そこで、作品の一場面を劇の脚本に書きかえる言語活動を通して、視点について考える意識をもたせたい。

### 2 単元の指導目標

- (1) 物事を一つの視点からだけでなく、異なる視点からとらえ、自分の考えをもって文章を書くことができるようにする。
- (2) 目的や条件に応じて、表現を工夫して書くことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

ア 国語への関心 ・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
ア 作品の一場面を劇の脚本に書きかえる言語活動を通じた指導		
1 劇の脚本の形式を整えて、相手に場面の状況が正確に伝わる劇の脚本を書こうとしている。	1 伝えたい場面の情景や登場人物の心情が相手に伝わるように、自分の考えを表現することができる。 (B(1)ウ)  2 書いた文章を読み返して、目的に応じた表現の仕方を書くことができているかを確認することができる。 (B(1)エ)	1 文章の中の事象や行為などを表す多様な語彙について関心をもって書きかえている。 (伝国イ(ウ))

4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価の方法
一	1	1 視点を変えて物事を見ることについて考える。	具体物（学年劇の映像や実際の劇の脚本など）を見せ、脚本（シナリオ）への興味を喚起する。 「視点を変えて書きかえよう」を読ませ、脚本（シナリオ）作成に必要なことについて考えさせる。 文学的な文章を脚本化する方法と留意点に気付かせる。	ア - 1 【ワークシートの記述】
		2 既習の文学的な文章や有名な作品の一部を劇の脚本に書きかえる。		
	2	3 「少年の日の思い出」を劇にする原作として読み、主な場面を把握する。	登場人物と出来事に注目して読ませる。 小説のクライマックスの部分を脚本化することを意識させる。	ア - 1 【学習計画表の記述】
		4 学習目標を設定し、学習計画を立てる。	学習の流れを生徒が把握できるように配慮する。	
二	3 4	5 脚本を書く手順を具体的に想起する。	1/9時を想起させ、具体的な手順を確認させる。	イ - 1, ウ - 1 【ワークシートの記述】
		6 場面ごとに登場人物と出来事に着目して情報を整理する。	出来事を場面ごとに時系列で整理させる。	
	5	7 脚本化する場面として選んだ部分について、情景と登場人物の心情について把握する。	ワークシートを用いて脚本化する場面についての情報を整理、収集させる。	イ - 1, ウ - 1 【ワークシートの記述】
		8 選んだ場面を脚本化するために、視点を変えて、登場人物の主なせりふを書き出す。	原作の設定を変えずに書くことや表現の特徴を生かして書くことを指示する。	
	6	9 登場人物の心情や情景描写をト書きとして書きかえる。	ト書きは劇を上演する際の役者への指示となるものなので、伝えたい内容が明確になるように注意して書かせる。 もともと一人称で書かれている部分なので、説明のないところについては想像して書くように指示する。	イ - 1, ウ - 1 【ワークシートの記述】
		10 ナレーションや行動を指示する言葉を付け加える。	場面の状況が明確に伝わるように指示する言葉を書かせる。	
	7	11 目的に合った文体や文末表現になっているかを見直して、脚本を完成させる。	「会話文の内容や文体」「特徴のある言葉」を変えないように指示する。	イ - 2, ウ - 1 【ワークシートの記述】
三	8	12 グループ内で相互評価をし、参考になるものを選んで発表する。	評価の観点に従って相互評価をさせる。	イ - 2 【ワークシート、評価表の記述】
		9	13 自分の脚本を見直し、加筆修正をする。 14 学習のまとめをする。	

5 - 1 1 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

視点を改めて文章を書きかえることで分かることに気付かせる。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
入 導	<p>1 視点を改めて物事を見ることについて考える。</p> <p>2 事前にとった書く力に関するアンケート結果を参考にして、身に付けたい力について考える。</p>	アンケート	<p>学年劇の映像とその脚本を見て気付いたことを発表させ、視点について考えさせる。</p> <p>事前にとったアンケートの結果をグラフ化して提示し、身に付けるべき知識・技能を意識しやすいようにする。</p>	
	<p>視点を改めて文章を書きかえる方法について知ろう</p>			
展 開	<p>3 視点に気を付けて文章を書くことについて考える。</p> <p>4 文学的な文章の一部を劇の脚本に書きかえる。 〔手順〕 主な台詞を書き出す。 ト書きを付ける。 行動や状況の説明を付け加える。</p> <p>5 脚本を書いてみての気付きをグループで出し合い、まとめたことを学級で報告し合って、文学作品を脚本化する方法と留意点について全体でまとめる。</p>	<p>補助資料 （「脚本を書くには」）</p> <p>ワークシート</p> <p>補助資料</p>	<p>「視点を改めて書きかえよう」の具体例を参考にして、文学作品には起こった出来事や人物の心情を語る際の視点が存在することに気付かせる。</p> <p>小学校の時に読んで内容を理解している作品や有名な作品の一部をワークシートの指示に従って脚本の形に書きかえさせてみる。</p> <p>劇の脚本の書き方の特徴について気付きをワークシートにメモさせておく。</p> <p>視点を改めて書きかえる際に読み手に伝えたいことを明確に伝えるために必要なことは何かについて、自分なりの考えをもたせるようにする。</p>	<p>ア - 1 劇の脚本を書くために、相手に伝えたいことが分かりやすく伝わるト書きの書き方や説明の仕方について具体的に見付けようとしている。 【ワークシート の記述】</p> <p>観点に合わせて気付きを書くよう指示し、書き方を具体的に例示する。</p>
ま と め	<p>6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>		<p>次時は、「少年の日の思い出」を劇にする原作として読み、単元の学習計画を立てることを知らせる。</p>	

5 - 2 2 / 9 時の指導計画

(1) 指導目標

文章を読んで、登場人物と出来事に着目して情報を整理することができるようにする。  
学習計画（見通し）を立てさせる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 本時の目標を知る。	学習 計画表	学習計画表を配布し、本単 元の目標と学習の流れを 確認させる。	
文章を読んで、書かれている情報を整理しよう。				
展 開	2 「少年の日の思い出」 を通読し、登場人物と出 来事に注目して主な場 面を把握する。 (1) 音声CDを聞く。  (2) 何人称で書かれた文 章か、だれの視点で書 かれた文章であるか を確認し、ワークシ ートに記入する。  3 劇の脚本を作るのに どのような作業が必要 で、留意点は何かを考 える。  4 これからの学習につ いて見通しをもたせ、学 習計画を立てる。	ワー クシ ート          学習 計画 表  生徒 用 手 引 き (「学 習 計 画 を 立 て よ う」)	脚本化に必要な、何がどの ように書かれているのか、 話題の中心は何かなどの 情報に注目して読むこと を確認する。  情報収集で困らないよう、 新出漢字や読めない漢字、 注意する語句については その都度確認させておく。  前時にモデル学習を行っ た劇の脚本の具体例を参 考にして、作成のための手 順と気を付けることを具 体的に考えるよう指示す る。  学習計画を立てること には不慣れなので、形を示 し、その中の一部分をグル ープで考えさせるように する。	ア - 1 読み手に情景や登場 人物の心情が明確に伝わる 劇の脚本を書くために、目 的や相手に応じた書き方や 表現の工夫について考えよ うとしている。 【話し合いの観察】 【ワークシートの記述】  生徒用手引き「学習計画を 立てよう」を参考にするよ うに指示する。
ま と め	5 本時の振り返りをし、 自己評価をする。  6 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	本時の学習を振り返らせ、 学習計画表に記入させる。  「少年の日の思い出」から 必要な情報を収集、整理し て脚本化することを知らせる。	

5 - 3 3 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

作成する資料の目的や意図に応じて、必要な情報が収集できるようにする。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">C の状況にある生徒への手立て</div>
導 入	1 学習計画表を確認し、 本時の目標を知る。	学習 計画表	前時の学習内容を想起させ、 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
目的や意図に応じて情報を集めよう				
展 開	2 劇の脚本を書く手順を具体的に想起させる。 〔手順〕 登場人物を把握する。 出来事を把握する。 主な台詞を書く。 ト書きを書く。 ナレーションや登場人物の行動の指示を書き加える。  3 本文の中から脚本化するのに適した場面を探す。 (1)時間の流れに着目して、全体を大きく二つの場面に分ける。 ・第一章（現在） ・第二章（過去）  (2)それぞれの場面の登場人物を把握し、簡単に人物像をとらえる。	ワーク シート  補助資 料  ワーク シート  蛍光ペ ン	1 / 9 時のモデル学習を想起させ、具体的な手順と留意点をワークシートで確認するよう指示する。  どんな情報がどのような流れで叙述されているかをワークシートにまとめることで、脚本化に適した場面を把握させる。  脚本化をするのに必要な、もともとの小説の特徴をよく表している表現に気付くよう助言する。	イ - 1 脚本化するという目的に応じた情報を選択することができる。 【ワークシート の記述】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">整理する項目のはっきり分かるワークシートを使用し、細かく指示と助言をする。</div>
ま と め	5 本時の振り返りをし、 自己評価をする。  6 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	本時の学習を振り返らせ、 学習計画表に記入させる。  次時は脚本化に適した場面を選択することを告げる。	

5 - 4 4 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

作成する資料の目的や意図に応じて、集めた情報を、整理、編集できるようにする。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し、 本時の目標を知る。	学習計 画表	前時の学習内容を想起させ、 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
目的や意図に応じて情報を整理、編集しよう				
展 開	2 本文の情報を場面ごとに整理する。 (1)前時に、時間の流れに着目して分けた場面を確認する。 ・第一章(現在) ・第二章(過去) (2)第一章(現在)、第二章(過去)で、章ごとに出来事を整理する。 ・起こる出来事を時系列で整理して場面の移り変わりを把握する。 ・語り手(視点となる人物)が誰かを把握し、その人物の行動と心情をワークシートに整理する。  3 整理した場面の中から、脚本化に適した部分を選ぶ。 [選ぶ基準] 事件が起こっている。 登場人物が複数いる。 人物描写や情景描写が多い。	ワーク シート  蛍光ペン	語り手(視点となる人物)に起きた出来事を中心に、話の展開を理解して、脚本化に適した場面がどこか考えるように促す。  [選ぶ基準]を参考にして脚本化に適した場面を学級で絞る。 学級で絞り込んだ場面のうち、自分が脚本化してみたいと思う場面を選択させる。 本教材では二つの場面がその基準に該当する。	イ - 1 集めた情報を目的に応じて整理することができている。 【ワークシート の記述】 整理する項目がはっきり分かるワークシートを使用し、細かく指示と助言をする。  ウ - 1 「少年の日の思い出」の文章の中の特徴的な言葉に関心をもって、抜き出すことができている。 【ワークシート の記述】 具体的に例示をしたり、友達と意見交換をするよう促したりする。
ま と め	4 本時の振り返りをし、自己評価をする。  5 次時の見通しをもつ。	学習計 画表	本時の学習を振り返らせ、学習計画表に記入させる。  次時は、選んだ部分の書きかえを行うことを知らせる。	

5 - 5 5 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

整理，編集した情報を目的に応じて書きかえて，脚本を書かせる。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し， 本時の目標を知る。	学習 計画表	前時の学習内容を想起させ， 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
展 開	2 脚本化する場面として選んだ部分について読み返し，脚本化するのに必要な情報を整理する。 登場人物を把握する。 主な台詞に印を付ける。 情景の描写と行動の描写を色分けする。	ワーク シート A B  蛍光ペン	選んだ部分に合わせてワークシート A か B を選択させる。 学級でどちらかに絞ってもよい。  2 / 9 時に確認をした「脚本を書く手順」を想起させて，必要な情報をワークシートに整理させる。  自分が文章を書く際の参考になる表現の工夫や構成の特徴に気付くよう助言する。	イ - 1 相手に伝えたい情報を集め，目的に応じた書き方で書きかえることができる。 【付せんへの記述】 【ワークシートの記述】  ワークシート や補助資料を活用するように指示し，項目ごとに具体的なアドバイスをする。
	3 整理した情報を脚本の書式に合わせて書き換える。 ・整理した情報のうち，主な台詞を確定する。 ・一人称で書かれているために「」付きの会話文として表現されていない部分も，せりふとして抜き出す。 ・場面の設定を変えずに書くために，つながりのよい台詞になるよう書く。 ・一人称で書かれているために表現されていない，主人公以外の登場人物の心情については，台詞や文章中の描写を根拠にして想像し，書き出してみる。	ワーク シート  ワーク シート  付せん ワーク シート  補助資 料	主な台詞を確定するために，台詞を付せんに書き出し，書いた付せんはワークシートに話の展開どおりにはらせておく。  場面の設定上，付け加える必要のあるせりふは後で挿入するよう指示する。  台詞は日常会話で，話し言葉なので，書き言葉と話し言葉の違いについても必要があれば触れておく。  既習事項ではあるが，補足が必要な場合は，教科書等の資料を参照させる。 ・東京書籍 「新しい国語 1」 P 18 ・光村図書 「国語 1」 P 26	
ま と め	4 本時の振り返りをし， 自己評価をする。  5 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	本時の学習を振り返らせ， 学習計画表に記入させる。  次時は台詞の流れに沿ってト書きを書くことを知らせる。	

5 - 6 6 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

脚本を書くことを通して、伝えたい情報を相手に伝えるために効果的な表現の工夫を意識させる。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し、本時の目標を知る。	学習計画表	前時の学習内容を想起させ、本時の目標と学習の流れを確認させる。	
効果的な表現の工夫を意識して、小説を脚本化しよう				
展 開	2 登場人物の心情や情景描写をト書き(場面の状況、人物の動きなどを指定するもの)として書き換える。 登場人物の行動や心情についての描写を基に、主なせりふの前後の場面の状況や人物の動きなどをト書きとして書く。 一人称で書かれているために表現されていない、主人公以外の登場人物の心情についてはワークシートの記述を基に、せりふやナレーション(心の声)として付け加える。 もとの小説の設定に合っているかを確認、合っていなければ書き直す。	ワークシート 付せんワークシート 補助資料	1 / 9 時にモデル学習で行った脚本の例や補助資料を参考にして、自分なりにト書きを書くことができるよう、個別に指示をする。  生徒の様子を見て、作業が進まないようであれば、周囲の生徒と意見交流をさせてみる。  進度の速い生徒には、さらに付け加えることのできる部分はないかを考えるように促す。	イ - 1 伝えたい場面の情景や登場人物の心情を、分かりやすい表現で書くことができている。 【ワークシート . . . , 付せんの記述】 【書き直しの内容】  ト書きの文例を具体的に提示する。  ウ - 1 文章中の語彙に関心をもち、その特徴を生かしながら書き換えることができている。 【ワークシート . . . , 付せんの記述】  分かりやすい文例を示したり、友達の表現を参考にしよう指示したりする。
ま と め	3 本時の振り返りをし、自己評価をする。  4 次時の見通しをもつ。	学習計画表	本時の学習を振り返らせ、学習計画表に記入させる。  次時は効果的な表現の工夫を意識しながら、脚本を完成させることを知らせる。	



5 - 7 7 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

学んだことを生かして , 役者 ( 読み手 ) に分かりやすい脚本を完成させる。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し , 本時の目標を知る。	学習 計画表	前時の学習内容を想起させ , 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
展 開	<p>2 台詞とト書きを組み合わせて脚本の形に整える。( 清書 )</p> <p>3 ナレーションや行動を指示する言葉を付け加えて脚本を完成する。脚本の冒頭部分に , 脚本化していない部分のあらすじをナレーションとして付け加える。説明の必要な部分があれば台詞の中に ( ) 書きで細かい行動を指示する言葉を付け加える。声に出して読んでみて , 不自然な表現がないか確かめる。</p> <p>4 完成した脚本を自己評価し , 工夫した点について評価表にまとめさせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート A B 付せん</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート A B</p> <p>ワークシート</p> <p>評価表 ワークシート</p> <p>補助資料</p>	<p>目的と相手を想起させ , それに応じた表現の工夫を取り入れるよう確認する。 ・劇の脚本 対象は中学生</p> <p>付せんと並べ替えて構成を考えてから , ワークシートに清書をするように指示する。</p> <p>あらすじの書き方については , 情報を整理したときにまとめたものを要約して使うようにさせる。書き方でとまどう生徒には文例を示すようにする。</p> <p>目的に合った表現になっているかにも気を配らせる。</p> <p>目的や相手に応じた書き方ができたか , 伝えたいことが相手に伝わるように工夫して書くことができたかを自己評価させる。</p>	<p>イ - 2 自分が書いた文章について目的や相手に応じたまとめ方や表現ができていないか確かめることができる。</p> <p>【ワークシート , 評価表の記述】</p> <p>ワークシートを振り返らせ , 確かめる観点を具体的に指示する。</p>
ま と め	<p>4 本時の振り返りをし , 自己評価をする。</p> <p>5 次時の見通しをもつ。</p>	学習 計画表	<p>本時の学習を振り返らせ , 学習計画表に記入させる。</p> <p>次時は , グループで相互評価と意見交流を行うことを知らせる。</p>	

5 - 8 8 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

自分と友達の脚本の表現の工夫に気付かせ , よりよい加筆修正ができるようにする。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し , 本時の目標を知る。	学習 計画表	前時の学習内容を想起させ , 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
グループで相互評価をし , よりよい脚本にしよう				
展 開	2 グループ内で各個人が作成した脚本を読み合い , 相手や目的に応じたまとめ方や表現の工夫ができているか , お互いに評価する。 ・評価表や付せんを活用して次の手順で評価を行う。 〔手順〕 お互いに読み合う相互評価を行う。 ・読み合った後 , よい点とアドバイスを評価表に記入する。 自己評価を行う。 ・友達の評価を確認した後 , 改善点を中心に評価表に記入する。	ワーク シート 評価表 付せん	友達の作品を評価することを通して , 目的や相手に応じたまとめ方や表現の工夫の多様さに気付くことができることを確認する。  友達と自分の作品を比較することで , 自分のまとめ方や表現の工夫のよさや改善点を見付けさせる。  書き方の例を示すなどして , 気付いたことをできるだけ具体的に書くように指示する。	イ - 2 相手や目的に応じたまとめ方や表現の工夫をして書いているか確かめることができている。 【評価表 , 付せんの記述】  評価表に示している評価の観点に従って具体例を示し , それを参考にさせる。
ま と め	4 本時の振り返りをし , 自己評価をする。  5 次時の見通しをもつ。	ワーク シート 評価表	グループ内でよい作品を選び , なぜよいのか , 参考にすべき点はどこかを話し合うように指示する。  本時の学習を振り返らせ , 学習計画表に記入させる。  次時は , 自分の作成した脚本に加筆修正を行い , 本単元の学習の振り返りをすることを知らせる。	イ - 2 相手や目的に応じたまとめ方や表現の工夫をして書いているかを確かめることができている。 【評価表の項目 2 , 3 の記述】  友達の意見の具体例を示し , それを参考にさせる。

5 - 9 9 / 9 時の指導計画

( 1 ) 指導目標

- ・ 本単元の学習を振り返り，身に付けた力を確かめさせる。
- ・ 身に付けた力の日常生活での活用場面について考えさせ，意欲を高める。

( 2 ) 展 開

過程	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 学習計画表を確認し， 本時の目標を知る。	学習 計画表	前時の学習内容を想起させ， 本時の目標と学習の流れを確認させる。	
学習を振り返り，学んだことを生活に生かそう				
展 開	2 選んだ脚本で発表を行い，他のグループの発表を聞いて評価をする。  3 自分の作品を見直して加筆修正をする。  4 学習計画表やワークシート，作成した資料，評価表などを使って，本単元の学習を振り返る。 【振り返りの観点】 ・ 作成した脚本について ・ この学習で身に付けた力について ・ この学習で身に付けた力を使ってできることについて  5 身に付けた力を活用した学習について考える。	評価表 ふせん  評価表 ワークシート  学習 計画表 ワークシート  評価表	他のグループの発表を見て，よいところや参考になる点を付せんに記録し，評価表にはるように指示する。  相互評価をして気付いたことや，友達作品のよいところを参考にして，自分の作品の見直しをすることを確認する。  本単元の学習を振り返らせ，身に付けた力を具体的に学習計画表の記入欄に書くように指示する。 脚本化するために視点を変えて作品を見直したことによって気付いたことも，ワークシートに書かせておく。  身に付けた力の活用場面を具体的に考えることで，次の学習への意欲をもたせる。	イ - 2 だれにでも内容が分かりやすく伝わる表現や構成になっているか確かめることができている。 【評価表の記述】 【作品の記述】  友達作品のよさを取り入れて書くよう，助言をする。  ア - 1 読み手に場面の状況が正確に伝わる脚本を書くために，目的や相手に応じたまとめ方や表現の工夫をしている。 【作品の分析】 【評価表の記述】 【学習計画表の記述】
ま と め	6 本単元の振り返りをし，自己評価をする。  7 次の単元への見通しをもつ。	学習 計画表	本単元の学習を振り返らせ，学習計画表に記入させる。  次の学習への見通しをもたせる。	